



KAHF ニュースレター

〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2-2 国際交流会館3F

財団法人 京都国際文化協会内

京都ホストファミリー協会 (KAHF)

No.23

2024年3月発行

2024年度 行事予定

4月 14日

ウエルカムパーティ

5月

春のハイキング

6月

料理教室

10月

秋ウエルカムパーティ

11月

秋のハイキング

2025年

1月 19日

新春親睦パーティー

2月

凧揚げ大会

3月

総会・会員の集い

今年の元日もマレーシアのR君から賀状メールが届きました。彼はKAHFが発足した1984年最初に受け持った留学生です。今では自国の立派な会社の重鎮で、家族を連れて来日してくれることもあります。ほぼ同時に来たマレーシアのK君には手をやきました。「寂しい」と言って夜中に何回も電話をかけてきたり、勝手にバイクを買って請求書は当方へ、そのバイクで事故を起し現場へかけついたり自国特有の病気になり、早朝に大阪の病院へ走ったりしました。それでも私の夫は彼が卒業の時に未納であった授業料の残りを納め、卒業式には連れ添って出席し、日本の企業へ就職させました。

これは留学生との悪い付き合い方の例です。当時彼らは大学の寮に住み自炊、日本の文部省の奨学金5万円で生活していました。後に、HFは留学生と付き合う際「金銭の贈与、賃貸しやその他の保証などをしてはならない」という規則ができました。

中国、東南アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南アメリカなどの留学生の担当にもなりましたが、なぜか男性ばかりを受け持つことになり、その中の数名は来日してすぐ、自国から彼女を呼びよせて結婚し、日本で家庭を持ちました。

従って日本語が話せない彼女達の出産時の世話はこちらの仕事、保育園にも付き添いました。今では、帰国して成長した子どもたちの写真をFBなどで見るのが楽しみです。当時は困ることもありましたが、すべて懐かしい思い出です。

世界情勢の変化とともに日本に来る留学生も変化していき「研究室ではみんな英語で話すので日本語はあまり必要ない」と言う留学生もいます。私は高齢で一人暮らしとなり、近頃は新しい留学生を引き受けることが難しくなりました。

今、HF数の減少や高齢化などの問題に取り組み、KAHFの発展のための運営などを懸命に考えて下さっているHFの若い方々に心より感謝しています。

谷垣先生には、長い間まとめて下さっているKAHFのお仕事は大変なもの、厚く御礼申し上げます。



阪田敦子

2023年度会務報告

2023年度に13名の新しい留学生（No.2190～2202）を受け入れてHF をマッチングしました。例年50～70名の申し込みがあった留学生数が新型コロナウイルスの蔓延およびそれに対する外国人の入国制限措置のために、2020年度は16名、2021年度は5名と激減の状態でしたが、2022年度は21名、そして昨年度は13名と来日条件の緩和もある程度進みコロナ以前の状況に戻ることを期待できるようになってきております。

HFに関して、従来AとBブロックに分かれていましたが、これを統一し、グループもG1～G6に再編成しました。また、これを機会に連絡の付かないHFを退会扱いとしました。昨年度の新ファミリー4名を含めて現在の会員数は70となりました。HFも高齢化が進み、留学生の受け入れが難しくなっています。新規HFの開拓がKAHFの発展のための必須条件になっています。

2023年度に Brother/Sister(B/S)プロジェクトへの新規登録はありませんでした。B/S 会員は卒業・就職などで自然退会も多く現在の活動会員は5名程度です。新メンバーの開拓とB/S活動のシステム再構築が必要です。

会の運営に関する留学生のマッチング、会としての行事などの事項に関しては、月一回の世話人会で決定しています。重要事項に関しては、年一回の総会・会員の集いを開いて承認、決定をしています。2023年度の総会は2024.3.17に行います。

KAHF全体での行事として実施したのは下記の8件です。

- 2023. 4.16 ウェルカム・ミーティング(春)
- 2023.5.27 将軍塚ハイキング
- 2023. 6. 4 料理教室
- 2023.7.29 下鴨神社御手洗祭
- 2023.10.29 ウェルカム・ミーティング(秋)
- 2023.11.12 料理教室（ウクライナ料理）
- 2024. 1.14 新春親睦パーティー
- 2024.2.25 凧揚げ





Welcome Party

4月 16日(日) 13:00~16:00

国際会議場 別館2F

今年2月の凧上げイベント以来、コロナ禍下火になりウェルカムパーティーも開催しました。

参加者は、会員 16 名 BS.と留学生 24 名 計 40 名でした。

お菓子や飲み物をセッティングし、お茶席と名前漢字変換コーナーと新聞紙丸めゲームと趣向を凝らしました。お抹茶は、学生さんのほか私達スタッフも頂き、しばしほっこり致しました。(お抹茶碗あらいなど、スタッフさんも陰ながらのお手伝いでした。)

名前漢字変換コーナーでは、担当者が事前に留学生リストに合わせ準備をしたにも関わらず、新規の方ばかりで段取りが大変だったようです。皆さんの尽力の元、ウクライナからの避難された留学生さんや小さな赤ちゃん連れの方など、四世代に渡り楽しい交流でした。



将軍塚ライトハイキング 5月27日(土) 13時~15時

5月27日の1時過ぎに八坂神社石段下を出発して、少し遅れて登ってきたグループと将塚で合流出来ました。青龍殿を見学した後大舞台から京都の街並みを北から南へ、又少し霞見える阿倍野ハルカスが見える見えないで久方ぶりの団欒を楽しむことができました。

今回のライトハイキング

には留学生6名ファミリー12名とお子さん1名、19名の参加がありました。

楽しいひと時を過ごさせて頂きありがとうございました。





KAHF 料理教室

6月4日(日) 13:00～ ウィングス京都 2F

初夏、ウィングス京都において、料理教室を開きました。今回は巻き寿司、水羊羹、かきたま汁3品の献立をたてました。コロナによる3年の空白を経ての久しぶりの集い、留学生5名ファミリー11名、お子様5名、計21名方たちの参加を得ました。

今回は若い参加者が多く、ワイワイと活気溢れる賑やかな集いになったとの感想頂きました。特に、留学生、お子様、男性ファミリーの方たちが卵焼きや寿司巻きに一生懸命に取り組んでられる様子が印象的でした。当日参加された若いお母さんファミリーが入会を決めてくれました。

次回の料理教室は、ウクライナ留学生がウクライナ料理を紹介、教えてくださるそうです。

ご期待ください。



下鴨神社 御手洗祭り足つけ 2023年7月29日(土)

連日の暑い気温の中、また土曜日で非常に混雑する中、ファミリー10人、留学生8人、ゲスト、6人(24人)の参加がありました。あまりの混雑でKAHFグループみんなと一緒に夏越しの足つけというわけにはいきませんでした。それぞれにろうそくを手に持ち池に裸足で入り、お祓いの神様に参拝し、灯明を供え、ご神水を飲み身を清めてまいりました。



KAHF 秋のウェルカムパーティー 秋 10月29日(日) 13:30～

場所：京都大学吉田キャンパス時計台集合し吉田山へ
出発の 1:30 には雨の降りそうな空が覆い、新留学生はゼロでした。それでも吉田山へは行こうという話をしていると 3 人の学生が来てスマホを見せつつ「ウェルカムパーティーはこのグループですか」と聞いてきました。数人の HF がカーフの説明をして入会とハイキングの参加をすすめました。この 3 人中国人留学生を迎えたころ天気も良くなり、いい雰囲気です。吉田山を目指し出発しました。頂上の寮歌碑横広場でシートを広げ自己紹介やゲーム・ビンゴをして楽しいひと時を過ごしました。参加者は学生 3 人 HF13 人合計 16 人でした。日本に来て間もなく日本語にも慣れていない学生達でしたが、HF の方々は久しぶりに学生と出会うことなく積極的に会話を始め、気持ちよいイベントになりました。



ウクライナ料理教室 11月12日(日) 13時～ ウィングス京都

20 名参加うち 5 名学生

2 人のウクライナ避難留学生にウクライナ料理の教室をお願いしたところ心よく引き受けてもらえました。ボルシチとバレニキはウクライナを代表する料理です。レシピを作る過程で日本と違う出汁の作り方などあり講師リアナさんの考えを大切にしました。当日はレシピを見ながら作りはじめ、二人のウクライナ人に各テーブルを回って助言を頂き進めていきました。肉の角切り湯通し、野菜の千切りなど丁寧にしながら珍しいピーツを切りトマトジュースを鍋に入れました。赤いスープが煮立ってボルシチが出来上がってくるとどんな味になるのかと興味津々で本格的ウクライナ料理が作れたという満足感が湧いてきました。バレニキは餃子に似ています。講師が生地を予め作ってくれましたので具と皮をみんなで作りました。待ちきれぬグループから食べ始めました。みんなおいしいの連発でした。ウクライナのこと料理のこと日々の生活のことなど交流しながらどのグループも楽しく食べました。留学生の参加は 5 人、ウクライナを除いた 3 人も様々な機会に調理に参加し、若いエネルギーを発揮してくれました。マッチングを兼ねて参加した HF の親子もとても楽しくみんなと交流しておられました。見学参加の方もこの雰囲気になじんで楽しく過ごされました。



新春親睦パーティー 2024年1月14日 国際交流会館特別会議室

穏やかな天気にも恵まれた午後、陽光射す明るいイベントホールにて、今年4年ぶりの新春親睦パーティーが開催されました。留学生の参加者はどうかと心配もありましたが12名の参加、加えて卒業したB.Sの方、ファミリーと合わせて40数名の参加を得ました。谷垣代表の挨拶、乾杯に始まり会食、歓談。合間に企画されたイベントが次々と催されました。琴と三味線の演奏を聴き、そしてその伴奏による'浜辺の歌'を日本語と英語で歌いました。また伝言ゲームや、ビンゴゲームなどにも興じつつ楽しいひとときを過ごしました。コロナのトンネルを抜け、久しぶりに晴れやかな会が戻ってきた感触を得ました。



凧作り：左京西部いきいきセンター 2月25日、留学生1人：ファミリー7人)

2月25日、1週間前から雨予報でなんとか当たらず晴ればいいなと思っていましたが、案の定雨降り、参加者もスタッフ入れて4人くらいかな？と案じましたが、参加者8人が集まりました。皆さん楽しくわいわいと凧を作り、カラーマジックで好きな絵を描き、個性豊かな「オリジナルぐにゃぐにゃ凧」が出来上がりました。外は雨で凧上げとはいきませんので、室内で子供の様に走り回って凧上げしました。



私と留学生のお茶の間交流2023～2024年

島田弘子

2019年 谷垣先生から入会のお誘いを頂き、現在まで6名のホストファミリーとなりました。コロナ禍では人数が滞り心配でしたが、その後の留学生さんをご紹介致します。

2023年 9月帰国されたタイのサーイさんとプレウさん彼らは学業やバイトが忙しく、ほとんどイベント参加なく寂しい思いでした。そこで帰国前、我が家でお別れパーティー。

卒業式の袴と着物三組で、とっかえひっかえお召し替え。写真も80枚ほど撮り、好きな写真をピックアップし盛り上がり。

母国のご両親に、日本での暮らしが伝わればと願いつつの一日でした。

またタイのネーンさんは今年が帰国予定ですが、日本語スピーチコンテスト、大津祭の鉾引き、学業でフロリダやNASAに行ったり高槻マラソンに参加するなど、とてもアクティブな女性です。

日本での生活も、あとわずか。たくさんの経験が彼女を成長させたようで、私も嬉しいです。帰国前は、我が家に遊びにきて頂く予定です。

そして最後に今年の1月に受け入れたインドのガヤトリさんです。

彼女とは初対面でも会話が弾み、たこ焼きと映画が大好きなガヤトリさん。お互いのお勧め映画の話をするものの、グーグル通訳が思い切り間違っていて大笑い。

なごやかな時間を過ごしました。ここしばらくは、学業やプレゼンテーションに忙しく、3月頃の再会を約束しました。

今後も皆さんには、たこ焼き食べ放題、美味しいカレーうどん、タイ料理など食べ歩き、喜んで頂きました。単語英語の私でも、食べ物を通して仲良くなれる事を実感しました。

今後は、グーグル使いながら展開していくつもりです。(笑)

留学生とのお茶の間交流、私の大切な時間です。



KAHFに入って思うこと

大崎麻矢

2023年度の半ばより、KAHFに参加させていただいています。きっかけは、ヒンメリを通して再会した同級生の母、西村さんに誘っていただいたことでした。

海外旅行経験無し、英語も全く話せない、そんな私がホストファミリー？とと思っていましたが、初めてお邪魔した料理教室では、西村さんはじめホストファミリーの方々や、明るく積極的な留学生たちのおかげで、緊張がほぐれてとても楽しい時間を過ごすことができました。

その際、言葉や文化が違ってみんな人間であり、コミュニケーションを取ろうとする者同士であればなんとかなる！という当たり前のことを改めて実感しました。

KAHFに入会後すぐ、中国人留学生の男の子を紹介して頂き、ホストファミリーになりました。なんとなく中国の方は気難しいというイメージがあり、初めて受け入れる留学生が中国の子で、うまくやっていけるだろうか・・・と不安を感じていました。しかし、初めて会った留学生のLi君はとても気さくで人懐っこく、日本の大学生と何も変わらない一人の若者でした。

受け入れる側の私よりも、他国に一人でやってきてホストファミリーに飛び込んでいく留学生の方が何倍も不安なはずだと考えると、彼と良い関係を築き、安心できる存在になりたいと素直に思うことができました。

ホストファミリーになってからまだ半年しか経っていませんが、2023年はクリスマスとお正月を共に過ごしました。Li君や彼の友達と交流することで、日本と中国の文化がいかに密接に関係しているかを知り、隣の国でありながら知らなかったことがたくさんあることに驚きました。今では中国に行ってみたいと思っています。

ところで、留学生との交流で、一番良い影響を受けているのは中学1年の息子です。初めは私と同じように英語も中国語も話せないと緊張していましたが、Li君が独学で日本語をどんどん覚えていく姿を見て、「言語は学校の勉強だけではなくコミュニケーションの手段だ」と学んだようです。それまでは、テスト前にひたすら英単語を覚えるだけだった学校の英語学習に対して、向き合い方が変わってきたように感じます。

